

パルモン大パニック

東方とドミナリアのプレインズウォーカー

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

太一のめちやくちやな説明でパルモンは大パニックになる。

目次

パルモン大パニック

ミミ「空さんのお母さんは華道をやっているのよね？」

空「ええ、そうよ、ミミちゃん。それがどうしたの？」

ミミ「私も空さんのお母さんがやっている華道っていうのやってみたいかなって思ってたね、空さん。」

空「お花を飾るのは難しいわよ？ ミミちゃんには向いていないと思うわ。」

森を歩いている間、選ばれしこども達とパートナーデジモンは森を歩きながら少しお話をしていた、すごい大問題になったタケルの浮気の現場(??)はタケルとパタモンと太一とアグモンの秘密であることは言うまでもない。

ヤマトがその一件を知ったら太一には鉄拳が飛んでいるだろう。

浮気の現場にはヤマトがいなかったのよかつたが、もしいて無意識の爆弾発言が聞こえていたら修羅場になることは間違いなしだ。

アグモン「なあ、太一？」

太一「どうしたんだ、アグモン？」

太一がアグモンに対していった事がパルモンの頭の中を大きい被害妄想には知らせてパルモンは大パニックになることは誰も予想していなかった。

アグモン「華道って何だ？」

太一「うーうーん、そうだな・・・」

花を切ったり茎を折り曲げたり葉をちよつぎんと切断して根っこを分けてそれらを背中がとげとげのハリネズミの上にくし刺しにして見ることを楽しむことかな。」

空「太一!？」

太一のめちやくちやな説明に空はドン引きする、パルモンは太一の

話していたことに想像して……。

パルモン（太一が話していたこと……。あたしの葉っぱときれいな花が別々になって、それらをとげとげの山に突き刺す……。）

パルモンは少し硬直していた、ミミがパルモン、どうしたの？ って言おうと時……。

パルモン「いやあああああ!!!」

太一「わ!？」

パルモンは大パニックになってその辺にある木にしがみついている。

ミミ「パルモン!？」

パルモン「いや〜〜!! あたし、切ったり折られたり真つ二つになつたうえにとげとげの上にくし刺しになんてなりたくなく〜!!」

ミミ「パルモン、落ち着いて〜!!」

空「ちよつと、太一何とかしなさいよ。」

太一「え〜〜なんで俺が??」

空「あなたがめちやくちやなことを言うからでしょう。」

考えてみればパルモンは植物系のデジモンだ、こんなめちやくちやな説明をされれば大パニックになるのも無理はないだろう。

太一「まったく、しょうがないなく。」

空「しょうがないのは太一でしょう……。」

説明をするのが面倒くさいなって思いながら木にしがみつくパルモンの前に立つ太一。

太一「パルモン、悪かったな、めちやくちやな説明でびびらせて。パルモンが切られることはないから。」

パルモン「太一、それホント?」

太一「ホントだよ、【きれいな花しか切られないから】。」

パルモンはぶつつん!!

パルモン「何ですって!？」

どういう意味よ、失礼ね、ポイズンアイビー!!」

太一「ぐげえええ!!」

怒ったパルモンはポイズンアイビーで太一の首を締め付ける。

ミミ「ああ・・・。」

空「あく、もう頭がいたい。」

説明するなら言葉を選びなさいよって考える空であった。